

第2期君津市子ども・子育て支援計画（素案）に係る
まちづくり意見公募手続の実施結果について

保 健 福 祉 部

令和2年1月7日から令和2年2月6日まで意見募集を行ったところ、以下のとおり意見がありました。

1 意見の件数

意見数 20件（提出者数 3人、1団体）

2 提出方法

持参 3件（1団体） 郵送 0件（0人）

Fax 0件（0人） 電子メール 17件（3人）

3 意見の概要及び市の考え方

市の対応区分

対応区分		意見の件数
A	意見をもとに、施策案を修正したもの	1件
B	意見の考え方が施策案に含まれていたもの	11件
C	意見を施策案に反映しないもの	8件
D	その他、施策案に直接関係ないもの等	0件

	意見の概要	対応区分	市の考え方
1	・ファミリー・サポート・センター事業の実態 利用を希望する時間に都合が合う会員がおらず、利用できない状況があり、数値だけが問題ではない。	B	多様化する要望に対応できるように、人材の確保に努めてまいります。

2 ～ 3	<p>・放課後児童クラブの量の見込み等</p> <p>量の見込み及び確保方策について、供給が上回る書き方であるが、利用継続を希望している高学年の保護者に退会を依頼していることから、現状は異なる。市街地では、放課後児童クラブ保育が不足している。</p>	C	<p>毎年、5月1日時点の登録児童数を各放課後児童クラブより確認しておりますが、より正確な実態の把握に努めてまいります。</p>
4 ～ 6	<p>・放課後児童クラブの運営</p> <p>父母会での運営は負担が大きいため、市やNPO法人等による運営を実施してほしい。あるいは、支援員の採用や新規利用者入会の手続き等の業務を市が行うことで、負担を軽減してほしい</p>	C	<p>現在、各放課後クラブでは、それぞれの地域特性に応じた柔軟な運営や各学校との密接な連携により、良質な環境を提供していただいております。一方で、運営負担が大きいことも認識しておりますので、今後、運営のあり方について、協議・検討してまいります。</p>
7	<p>・放課後児童クラブの整備</p> <p>保育ニーズの高まりに対応し、放課後児童クラブの整備を行うことは賛成であるが、整備方法については、現存の拡大という選択肢に限るのではなく、市とクラブが話し合いを行い、解決策を考えていく必要がある。</p>	B	<p>今後、利用児童数の増加が見込まれており、放課後児童クラブの整備が必要となるため、引き続き、連絡協議会等において協議してまいります。</p>

8	<p>・基本理念の内容</p> <p>基本理念について、これからのようにしていくかが漠然としている。子どもの最善の利益をどうとらえるかがポイントになるかと思う。世の中には多様な人がいて、その誰もが尊重され、認められる社会であってほしい。</p>	B	<p>基本理念では、「みんなが笑顔で元気につながる子育てのまち」としており、だれもが尊重され認められる地域共生社会の実現を目指すという思いが込められております。</p>
9	<p>・基本理念の内容</p> <p>「笑顔で元気」は高齢者施策を想起させる面があるため、「みんなが笑顔で元気に」を「みんなが自分らしく輝ける」へ変更することを提案する。</p>	B	<p>「みんなが笑顔で元気に」は、子育てを通して笑顔で元気にいられるようにという思いが込められており、「みんな」には全ての個人及び団体を対象としております。</p>
10	<p>・基本方針の内容</p> <p>基本方針1について、「逃げ場所」を想起させるため、「安全で安心して、自分らしくいられる環境や居場所を整備していく」を「安全で安心して、いかなる時でも自分らしくいられるよう環境や居場所を整備していく」へ変更することを提案する。</p>	C	<p>時代の変化と共に、多様な環境や居場所が求められていると考えます。</p>
11	<p>・基本方針の内容</p> <p>基本方針2について、保護者が自信をもって子育て、生活、労働できるような気づき・学びの場を作るといような文言を</p>	B	<p>安心して子どもを産み育てることができる、保護者によりそった支援を個別の施策で対応してまいります。</p>

	加えてほしい。		
12	<p>・基本目標の内容</p> <p>基本目標の中に、「自分自身を大切にし、それと同じように他者を大切にできるような人格形成を目指す」「自分の意思で人生を切り開いていくことができる」というような内容を盛り込んでほしい。</p>	A	<p>いただいたご意見を踏まえ、表現を改めます。</p>
13	<p>・基本目標の内容</p> <p>基本目標４に互いを認め合うことで犯罪を生まないまちづくりのような内容を盛り込んでほしい。</p>	B	<p>犯罪を生まないまちづくりのために、互いを認め合い、自分自身や他者を思いやる人間性をはぐくむことは非常に大切です。君津市では、基本目標３において、位置付けており、これからも心の教育を充実させていきたいと考えております。</p>
14	<p>・保護者同士の交流</p> <p>保護者同士が交流する等のピアサポートの場として、保育園の保護者会と小中学校のPTAを計画に盛り込み、市の施策として位置付けてほしい。</p>	C	<p>貴重なご意見をありがとうございます。子育て世代のつながりの大事さを今後も考えつつ、連携できるよう、今後の参考にさせていただきます。</p>
15	<p>・食育指導</p> <p>給食センターで調理している様子を見学することにより、給食や食材に対する理解を深める</p>	B	<p>令和２年２月から調理場見学を開始しております。</p>

	<p>ことはできないか。学校で講和を行うより心に残るのでは。</p>		
16	<p>・特別支援教育推進事業の内容 インクルーシブを基本にすると明言されていないが、必要ないのか。</p>	B	<p>インクルーシブ教育を「一人ひとりの支援ニーズに応じた教育」としてとらえています。</p>
17	<p>・コミュニティ・スクールの活用 コミュニティ・スクールが全国的に展開されていますが、君津市でのコミュニティ・スクールの活用はどうなっているか。</p>	B	<p>君津市では平成30年度から、周西小学校・周西南中学校にコミュニティ・スクールを導入しており、今後も拡大を図る予定です。「地域と学校の連携を深める」という考え方は、全ての地域と学校で大切にしていきたいです。</p>
18	<p>・自然体験学習推進事業の内容 道徳性の育成を図ると言い回しに少し不安を覚える。ふるさと君津の継承者として押し付け教育を行うと、かえって君津を出たくなる若者が増えるのでは。一人ひとりが自然と対峙するような体験ができるよう、考えてほしい。</p>	B	<p>心の教育である道徳教育や人権教育等では、押しつけることなく少しずつ身につけられるようにすることが大切だと考えております。そのため、他の教科指導等と区別し「涵養」という言葉を使用することがありますが、ここでは文部科学省が使用している「道徳性の育成」という一般的な言葉を使用させていただきました。児童期に自然と親しめるような体験を企画し、自然愛護の心や郷土愛を育めるようにしていきたいと考えてお</p>

			ります。
19	<p>・人権教育の位置付け</p> <p>子どもの安全確保として、一人ひとりが人権意識をもつことで「犯罪を生まないまちづくり」が形成されると考えるため、人権教育を位置付けていただきたい。</p>	B	<p>君津市では「自他の大切さを認め、思いやりの心を育てる人権教育の充実」を重点目標とし、各学校が計画的に行えるようにして、人権教育を進めております。また、学校のみならず家庭や地域社会と連携していけるよう、道徳の授業を積極的に公開していくことを進めております。これからは心の教育を充実させていきたいと考えております。</p>
20	<p>・病児・病後児保育事業の量の見込み等</p> <p>量の見込みに対し、確保方策が大きく上回っている理由は。</p>	C	<p>量の見込みは年間の延人数であるため、利用定員は1日あたり3人までとなります。利用については突発的なことが多いため、1日に3人あたりの利用定員は必要と考えます。</p>

4 結果の公表

- (1) 公表場所：子育て支援課、行政センター、公民館、コミュニティセンター、中央図書館、市のホームページ
- (2) 公表期間：令和2年3月24日から令和2年6月23日まで